

コロナ禍における 小地域福祉活動のカタチ

～事例集～



三重県社会福祉協議会

コロナ禍における 小地域福祉活動のカタチ ～事例集～

目次

- 3 はじめに
- 4 事例1 健遊会（東員町）
- 6 事例2 稲生助け愛ネット（鈴鹿市）
- 8 事例3 大河内地区住民自治協議会（松阪市）
- 10 事例4 北野友楽クラブ（明和町）
- 12 事例5 度会町ボランティアグループ連絡会（度会町）
- 14 事例6 子ども食堂「わいわいいがっこ」（伊賀市）
- 16 事例7 カフェ1go1笑（いちごいちえ）（御浜町）
- 18 事例8 高齢者地域見守り隊（紀宝町）



はじめに

全国的に、多くの地域において少子高齢化や、都市部への人材流出による過疎化が課題となっている状況のなか、暮らしの基盤となる地域において“つながり”、“支え合い”の重要性が高まっています。そのようななか、県内においても地域が抱える多様な生活課題の解決に向け、住民が主体となってこれまでの活動をより活性化させたり、新たな団体を立ち上げたりと積極的に活動されています。

本事例集では、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動に制限がかけられるなかで様々な創意工夫のうえ実施されている県内の地域支えあい活動の取り組みをご紹介します。これらの活動を通して、今後の地域づくりの参考としていただければ幸いです。

本事例集作成にあたり、事例の掲載および取材等にご理解、ご協力をいただきました団体のみならず、および社会福祉協議会の方々に深くお礼申し上げます。

小地域福祉活動は、一般的に、小地域を基礎に行われる住民の福祉活動と理解され、①住民間のつながりを再構築する活動、②要援助者に対する具体的な援助を行う活動とならんで、③地域社会の福祉的機能を高める組織化活動（地区社協またはそれに代わる基礎組織づくり）が含まれる。

（全社協「小地域福祉活動の推進に関する検討委員会報告書」より引用）

健遊会 ● 東員町笹尾西4丁目地区

活動概要



「ちょっと寄ってって」誕生会

発足は、平成16年から地区の60歳以上の有志が集まり、地区内のごみ拾いや防犯パトロールをすることから始まりました。活動を継続し、平成17年度4月1日より「健遊会」という組織に。健康で遊ぶ会から「健遊会」と命名されました。

上記の活動に加え、編み物や俳句など趣味の活動も並行して実施されるようになり、せっかく集まっているなら何かできないか！と現在の主な活動場所である集会所でお昼ご飯をみなさんととるようになり、毎月5つの行事を実施しています。

①「ちょっと寄ってって～」毎月第2水曜日

体操やおしゃべり、謎解き(メンバー自作のなぞなぞなど)の活動をはじめ誕生会、お花見、新年会などを開催。活動の中核。

②「カラオケ」毎月第1金曜日

③「編み物」毎月第2金曜日

④「俳句」毎月第3金曜日

⑤「絵手紙」は毎月最終金曜日。

(この活動とは別に、自治会とタイアップして発足した「カフェにしよん」の運営を担っています。毎月第3日曜日に実施。)

平成31年4月に東員町の公認団体として登録、また、東員町地域ボランティア制度の活動先としても登録されています。

感染症対策 (工夫)

新型コロナウイルス感染症の影響で、集会所での活動が休止となったことから、集まらない代わりに世話人のみなさんでお手製の脳トレプリントを作成し、毎月初めに問題を、中旬に解答を活動に参加しているお宅にポスティングをしてみながりを絶やさない工夫をしています。

また、自宅だからこそできる活動ということもあり、今まで参加されたことがない方から配布を希望されるなど、新たなつながりも生まれています。



脳トレプリントの配布

●インタビュー●

健遊会を運営する、世話人のみなさんからお話を伺いました。

左上／小谷津 俊美 さん(自治会長)
 右上／向 博司 さん(副会長・会計)
 左下／服部 ふみ子 さん(リーダー)
 中央／井上 光治 さん(会長)
 右下／加藤 君子 さん(副会長・運営推進)



事務局 この活動をしていて、良かったと思うことを教えてください。

活動がおでかけのきっかけになる。そうすることで、服装や身なりに気を付けるようになる。前日の夜から明日のことを考え、朝を早く起きたりなどするため、生活の中で頭を働かせることにつながる。何もないと、ぼっとしてしまいますから。人と会って話をすることが、楽しみや憩いになっていると感じます。

また、現在ではコロナ禍ということもあり、こもりがちになってしまいますが脳トレプリントの配布活動を通して、コミュニケーションがとれるし、情報を得られる機会になっているのが良かったと思います。それに、この脳トレプリントを楽しみに待っている人もたくさんいるので、励みになります。

事務局 活動継続のコツを教えてください。

やはり楽しみながら続けることだと思います。私たちは、似たような年齢で同じ地域に住んでおり共通点もたくさんあります。そのなかで、趣味の延長のようにみんなで何かができるというのは素晴らしいことだと思う。全員の“チームワークの良さ”とも言えますね。

それに、コロナ禍だからこそ、何らかの形で継続して

いかなければいけないという気持ちが、さらに我々の団結を強くしたと思います。

事務局 今後の目標を教えてください。

活動を継続させることはもちろんのこと、早くコロナ禍が落ち着いて今まで通りの活動に戻りたいと考えています。やっぱり、みんなで顔を合わせて楽しむということは特別なことだと思います。

また、まだまだ地区内の高齢者で参加できていない方がいますので、参加者を増やし地域全体でこの会を拡げていけたらいいなと考えています。

インタビューのひとこと

世話人のみなさんの仲の良さがとても感じられ、取材中も笑顔溢れる空間でした。

コロナ禍で実際に配布されている脳トレプリントに挑戦させていただきましたが、とても作りこまれている問題で、地域のみなさん毎月の楽しみになっているのがよくわかりました。(途中でギブアップしたのは内緒です・・・むずかしい！笑)



俳句作り



カフェにしよん

稲生助け愛ネット ● 鈴鹿市稲生地区

活動概要

稲生地区の全ての地域活動団体が所属するまちづくり協議会「夢ある稲生まちづくり協議会(夢協)」における福祉部会において、令和元年に鈴鹿市ではじめての支え合い活動団体として発足し、稲生地区内で困っている人と支援できる人が、気軽につながるができる仕組みを創出。「おたがいさま」の気持ちをもって住み慣れた地域でいつまでも安心して生活できるまちづくりを目的に、有償ボランティア活動を展開しています。

支援内容は、買い物などの付添支援、ゴミ出し、草刈りなど28項目にわたり、支援依頼件数は年々増加しています。

利用者、支援者ともに会員制となっており、利用会員が「ちょっと困ったな」、「助けてほしいな」と思うことを稲生助け愛ネット事務局の愛ネットコーディネーターに連絡し、依頼を受けた愛ネットコーディネーターが支援会員と調整することにより支援が行われます。

愛ネットコーディネーター

②依頼内容の調整

①支援のご依頼

③支援実施
④料金のお支払い

支援会員

利用会員

①「ちょっと困ったな」という方が、気軽に愛ネットに電話します。

② 愛ネットコーディネーターが、依頼内容の確認と、支援会員の調整を行います。

③ 支援会員がご自宅に訪問し、支援を実施させていただきます。

④ 支援終了後、利用料金を頂きます。

感染症対策 (工夫)

コロナ禍においても昨年度比2.5倍の支援依頼があったため、感染症対策をしながら活動を継続。消毒液・体温計等が入った「感染症対策キット」を用意し、支援時に活用しました。

また、利用者・支援者ともに安心でき、安全に支援を行うためのチェックリストを作成し、さらに、即時に対応が必要な支援以外は、感染者数が減少した時期に実施するなど、新型コロナウイルス感染症を理由に支援を断ることはせず、今までの活動を継続できる体制づくりに取り組みました。



活動の様子

● インタビュー ●

役員のみなさまからお話を伺いました。

前列左から
樋口さん、岩波さん、鈴鹿市社協 加藤さん、片岡さん
後列左から
小磯さん、飯野さん、鈴鹿市社協 村山さん



事務局 この活動をしていて、良かったと思うことを教えてください。

「ありがとう」という言葉ですね。人の役に立てて、笑顔で「ありがとう」と言ってもらえる、それがボランティアを続ける原動力となっています。

仕事をしていたり、家に一人でいたりすると「自分は、この地域で暮らしている」という意識がなかなか持てません。私たち役員をはじめ、支援会員、利用会員、関連するすべての皆さんと活動を通じてつながることができ、地域のために相互に協力して活動できているということは素晴らしいことだと思います。

また、有償ボランティアという形式で実施していることも良かったと思っています。私たちの気持ちでは、無償での支援で何ら差し支えないと思っています。しかし、日本人の良いところなのか利用者から、「無料だと申し訳ない」というお声を良く聞きます。そこで、僅かながらでも謝礼金の存在が気軽に支援を依頼できる“きっかけ”になっています。

事務局 活動の継続にあたり、課題はありますか。

支援会員のみなさんには、ありがたいことに積極的に支援活動に取り組んでいただけていますが、最近では病院付添支援が増えており、1日2～3名は依頼がある状況で支援内容に偏りができています。また、純粋に依頼件数も増加傾向にあるため、支援会員の負担が大きくなっています。

そのため、支援会員の増員が必要であると考え、私たちだけではなく、関わっていただいている全てのみなさんの力で活動の発信に力を入れなければいけないと思います。興味はあるけれど、“支援する”ということにハードルを感じている方にも声掛けし、気軽に支援者になっていただけるようにしていきたいと考えています。

インタビューのひとこと

役員のみなさまから、資料や模造紙、ポスターを使っても丁寧な活動の様子を教えてくださいました。支援項目も多岐にわたり、地域の“困りごと”解決に尽力されているのだと改めて感じることができました。「利用者の方からの『ありがとう』という言葉、これ以上はない」というお言葉、じびれました！



活動の様子

大河内地区住民自治協議会 ● 松阪市大河内地区

活動概要

松阪市大河内地区では、地域福祉教育活動の一環として毎年「福祉施設交流会」を実施しています。『お互いを思いやる福祉の心』を地域で育むことを目的に、大河内小学校の児童や大河内保育園の園児たちが福祉施設へ訪問し、利用者の方とお手玉や福笑いなどの昔遊びを一緒に楽しんだり、練習している音楽を発表したり、小学生・保育園児が育てたお花をプランターに植えて施設利用者の方にプレゼントする「花プレゼント」をしたりなど、様々なカタチで交流を図っています。



感染症対策 (工夫)

コロナ禍により福祉施設への立ち入りが制限されたため、対面で行う直接的な交流ができなくなりました。そのなかで、これまで継続して行ってきた地域子ども達と福祉施設の利用者の交流を、何かしらの方法で続けることはできないかと話し合い、「花プレゼント」の取り組みを活かすことになりました。検温・手指の消毒といった感染症対策を徹底したうえで、子どもたちの代わりに住民自治協議会の役員が高齢者施設を訪問し、子ども達が気持ちを込めて育てた花や寄せ植え、絵手紙やメッセージをお届けし間接的な交流を図ることにより活動を継続しました。



大河内保育園で子どもたちが育てたお花

● インタビュー ●

大河内地区住民自治協議会のみなさまから
お話を伺いました。

左から

仲田 辰実 さん(大河内公民館 館長)

堀田 利彦 さん(大河内地区民生委員・児童委員)

長野 修 さん(大河内地区住民自治協議会福祉ふれあい部会 部会長)



事務局 この訪問活動について、始められたきっかけを教えてください。

大河内地区は高齢化が急激に進み、住民一人ひとりの福祉活動への関わりが極めて必要だと考えています。地域で過ごす子どもたちと、高齢者との関わり合いとして何かできないかと考えた時に、大河内地区で、当時たくさん咲いていたヤマユリをプレゼントする「花プレゼント」が始まりました。

現在は、環境の変化によりヤマユリが採れなくなりましたが、思いやりの心で始まった「花プレゼント」は、現在も形を変えて続いています。

事務局 活動を続けていて良かったと思うことはなんですか。

大河内地区で暮らす子ども達が、地域とのつながりを持ってくれていると実感できることです。お手玉や福笑いなどの昔遊びを高齢者の方と一緒に楽しく遊んでいる様子や、音楽発表などを行っている姿を見て、子ども達と地域の高齢者との関わりが増え、地区全体に「思いやり」があふれていると感じられることが、この活動を続けていて、良かったなと思います。

● インタビュアーのひとこと

大河内地区に限らず、地域活動の担い手の高齢化や、若い世代の流出による人口減少が進み様々な課題を抱える地域は少なくありません。「花プレゼント」などの福祉交流を通して、住民全体で“地域を支える”ということ、地域で育っていく子供たちに伝えられています。大河内地区のみなさんの笑顔の花が咲き誇ることを、期待しています。



つながりを大切に



ふれあいの里「つじわら」にて

北野友楽クラブ ● 明和町斎宮地区・北野

活動概要

平成18年度に発足した「北野友楽クラブ」は、北野公民館を拠点とし、地域の北野公民館を拠点とし、地域の高齢者の趣味を活かしたクラブ活動や地域での見守り活動などのボランティア活動を展開し、現在の活動者数は100名に上ります。

自治会と連携を取りながら、子どもが参加できる夏祭りを開催したり、転入されてくる高齢者にも積極的に情報提供を行ったりと、住民相互の結び付き合いを大切にしています。自治会内の福祉事業所とも連携し、災害時の避難訓練や研修等も積極的に行っています。

また、同クラブを母体として、有志による有償ボランティア「ささえあい」を立ち上げ、庭の手入れや粗大ごみ等の搬出、パソコン・スマートフォンの使用方法の支援など自治会内の高齢者の生活支援を展開しています。

令和2年度には、活動の功績がたたえられ、全国老人クラブ連合会「活動賞」を受賞しました。

感染症対策 (工夫)

新型コロナウイルス感染症が蔓延する以前は、将棋や料理教室、お話会など14のクラブ活動を実施していましたが、感染拡大により一時休止。現在では感染症対策を充分にとったうえで「踊り」、「グランドゴルフ」、「健康麻雀」、「カラオケ」の活動を再開されている。

特に、新型コロナウイルス感染症によって大好きな「カラオケ」ができなくなり、閉じこもりがちになってしまった方のために、自宅練習用にと自作でCDを配布し、再開までの“つながり”を絶やさないう努めていました。現在では、ステージ上に仕切りの設置、マイクの消毒や個人用カバーをつけるようにするなどの工夫をし、再開されています。

また、有償ボランティア「ささえあい」ではコロナ禍においても生活は止まらないため、基本的な感染対策を徹底し継続することにより地域の方との“つながり”を保つことができました。



● インタビュー ●

会長の中瀬 秀男さんにお話を伺いました。



事務局 新型コロナウイルス感染症が拡大するなかでの活動継続について、苦労したことを教えてください。

中瀬さん 活動に制限がかかり、休止したものをいかに再開させるかが苦労しました。

しかし、我々の活動はみなさんが楽しみで参加しているものなので、コロナ禍においても速やかな活動再開に向けて基本的な感染対策などの準備をし、なんとか再開に漕ぎ着けました。

事務局 活動継続のコツを教えてください。

中瀬さん やはり、活動を楽しむことだと思います。カラオケ、踊りなどが好きだから活動に参加している人が多く、コロナ禍で中断することがあってもどのように対策をすればできるかを考え、すぐに対策をしつつ、復活することが出来ました。

毎週、何かしらの活動をしているのですぐに顔を合わせられる関係ができています。

事務局 この活動に携わってよかったと思うことを教えてください。

中瀬さん 参加者のみなさんが楽しんでくれているのが、見てわかることです。

各クラブの参加者はそれぞれ笑顔で活動しており、この活動を通じて“つながり”ができたこと、深められたことは良かったなと感じます。

インタビューのひとこと

地域のみなさんがお元気に、カラオケや麻雀、踊りをしている様子を見せていただきました。とてもアットホームな雰囲気、気が付けば手にマイクが！麻雀牌が！！とても楽しい時間を過ごさせていただき、この活動が地域のみなさんの健康の源になっているんだなあ、と感じました。



度会町ボランティアグループ連絡会 ● 度会町

活動概要

度会町で活動する①つくしの会、②オニオンサークル、③たんぼぼ、④南勢地区傾聴ネットワーク「みんなの輪」の4つのボランティア団体によって構成される度会町ボランティアグループ連絡会は、それぞれの活動を通して親睦交流を図り、情報交換や研修会の実施を通してボランティア会員の意識の向上、および組織の基盤強化を目的として設立され、誰もが住みやすい福祉の町づくりを推進しています。

<それぞれのグループ紹介>

①つくしの会

昭和62年発足の歴史あるグループ。これまでに築き上げた土壌に“つくしの芽”を1本でも多く、次の世代に引き継ぐため「輪と和」の精神で活動を続けられています。

【活動内容】 食事サービスにおける調理、美化活動(保育所、福祉施設の除草作業も含む)、福祉ふれあいまつり出店、募金活動、保育所・福祉施設交流会、地区でのサロン活動、高齢者宅への暑中見舞い・年賀状発送 など

②オニオンサークル

地域住民の健康増進に寄与することを目的として活動されているグループ。発足して、30年余りの活動実績を有しています。度会町食生活改善推進協議会の会員から構成され、若手からベテラン主婦まで幅広い年齢層で活動を展開しています。

【活動内容】 食事サービスにおける調理、福祉ふれあいまつり出店、一人暮らし高齢者おせち料理作り、美化活動、募金活動 など

③たんぼぼ

平成9年発足のレクリエーション活動を得意とするグループ。福祉バザーや交流会、他のボランティアグループの応援などに積極的に参加し、活動を行っています。

【活動内容】 福祉ふれあいまつり出店、美化活動、募金活動 など

④南勢地区傾聴ネットワーク「みんなの輪」

平成24年に結成された傾聴ボランティアグループ。それ以外にも美化活動や募金活動など積極的に活動されています。

【活動内容】 訪問による傾聴活動等、美化活動、募金活動



マスク作り



1枚1枚気持ちを入れて作ります

感染症対策 (工夫)

新型コロナウイルス感染症の影響により、度会町ボランティアグループ連絡会の活動のほとんどが休止せざるを得ない状況となりました。

このような中で、何か地域の役に立てることはないかと考え、令和2年度にはマスクを、令和3年度にはサシェ(香り袋)を手作りで作製し、施設に入所されている方や、民生委員・児童委員の協力も仰ぎながら80歳以上の一人暮らしの方にお届けしました。



手づくりマスク

●インタビュー●

度会町ボランティアグループ連絡会 会長
清水 幸子さんにお話を伺いました。

(左) 清水さん
(右) 事務局の度会町社協 中津さん



事務局 今後の目標を教えてください。

清水さん 徐々に活動が再開されていますので、感染症対策を充分に行い、今後、自分たちの幸せのためにも困っている人がいたら声掛けを行うなど、「小さな親切」を続けていきたい。

「小さな親切」がいたるところで行われると、大きな幸せになるんじゃないかなと思います。

事務局 活動継続のコツを教えてください。

清水さん 私たちが行っている活動を知っていただき、ボランティア活動への参加は気軽にできるという意識を持ってもらいたいという思いから、『ボラ連便り』を発行しました。

便りをみて、私たちの活動に興味を持っていただける方や活動に参加していただける方が増えることを願っています。

インタビューのひとこと

清水さんの優しい笑顔に癒されながら、楽しくお話を伺わせていただきました。「小さな親切」の拡がり、度会町全体が清水さんたちの幸せに包まれているんだなあと感じました。

お土産にいただいたコマですが、気付いたら仕事中にまわってしまっています(笑)



サシェ(香り袋)



みなさんで作りました!

子ども食堂「わいわいいがっこ」 ● 伊賀市上野西部地区

活動概要

子どもたちが、楽しく、安心してゆったり過ごすことのできる場を地域につくりたいとの思いから、こども食堂「わいわいいがっこ」は令和元年9月に発足し、活動を始められました。

毎月第3・4日曜日に12名のボランティアスタッフが、約50食を用意して地域の子どもを含む家族の方や地域の方を対象に食事を提供しています。子どもたちが楽しめるイベントも企画されており、手作りのチラシなどをみてリピーターの方や、回を重ねるごとに新しい利用者さんも増えてきています。



ボランティアスタッフのみなさん

感染症対策 (工夫)

コロナ禍では人数制限や時間帯を分けての会食やテイクアウトの形式に変更するなどの工夫をしました。また同時期に、フードドライブ・フードパントリーの取り組みを行うなど、こども食堂の形をとり続けていました。コロナ禍であっても活動を継続していけるように、ボランティアスタッフ間で知恵やアイデアを出し合い、日々活動をしています。



テイクアウトでお渡しする様子



今日は四色丼ぶり！おいしそう♪

●インタビュー●

代表者とスタッフにお話を伺いました。



事務局 新型コロナウイルス感染症の流行の中での活動について教えてください。

「わいわいがっこ」を立ち上げてすぐに、新型コロナが流行してしまい、緊急事態宣言のなかでも、何かできることはないかと話し合いを進め、いろんなことに挑戦をしながら活動を進めてきました。新型コロナが流行する中でも、地域の人や地元企業が野菜や肉などの食材を提供してくださり、こども食堂を続けることができました。

事務局 活動継続のコツを教えてください。

こども食堂の活動を理解していただき、いろいろな形でご協力をいただけるように、地域の方々や地元企業との日々のコミュニケーションを大切にしています。また、活動を始めてすぐの時に、募金箱の設置にもご協力いただいた商店などもあり、地域のみなさんの“ちょっとした温かい気持ち”に触れることが、活動を継続していくための活力となっています。

事務局 この活動に携わってよかったと思うことを教えてください。

食堂を開いている時に、小学生くらいの子とも赤ちゃんを抱えたお母さんがやってきて笑顔で食事をしていました。そのお母さんの「座って、温かいご飯を食べられるのが嬉しい。」とっていただいた言葉が、活動をやっていてよかったなと実感しました。心が温まると言ってもらえることが、とても嬉しかったです。

インタビューのひとこと

ハロウィンイベントの当日に見学をさせていただき、開始前にはすでに行列が！子ども達と保護者のみなさんの笑顔がまぶしかったです。当日は、お菓子やお弁当の提供とハロウィンの衣装した子どもたちがボールすくいなどをにぎやかに楽しんでいる様子は、まさに地域での“子どもの居場所”でした。



フードパントリーの様子



子どもたちのお楽しみコーナー

カフェ1go1笑^{いちごいちえ}

● 御浜町阿田和地区

活動概要



町の認知症対策に係る施策として、行政から御浜町社会福祉協議会が受託し、御浜町地域包括支援センターと共に協議し“認知症カフェ”の役割を持ったコミュニティカフェを平成29年度より実施。空き家となっていた元喫茶店の店舗を借り、地域包括支援センターや御浜町社協、地元の業者により改装され現店舗を構えています。

スタッフは、喫茶店ママ兼世話人として有償ボランティア2名、送迎世話人1名、ホールスタッフを障がいを抱える方の社会参加のきっかけとして2名、介護スタッフとして町内に訪問介護事業所を有する事業所の協力を得て交代で1名、認知症・介護関係専門職が1名(社協職員、地域包括支援センター職員が交代で担当)の体制で行っています。

開催日は、毎週火曜日の10時から15時30分。11時から13時まではランチを提供し、13時から15時までの間は認知症カフェとして営業。その間は事前予約で送迎を行っており、認知症のある人とその家族や、認知症が気になる人を対象に、気軽に利用できる喫茶店として、また相談やお話ができるつながりの場としての機能を持ち合わせています。

感染症対策 (工夫)

- ① 検温や手指消毒の実施、参加者名簿の作成、飛沫防止パーテーションの設置を行いました。
- ② 1テーブル4人掛け配置にしていたテーブルを1人がけに変更し、お客さんにカウンターに向かって掛けていただくようにしました。
- ③ 小学校が休校になった時に、子育て支援として「子ども弁当」を100円で販売し、地区の学童にも提供しました。
- ④ コロナの状況をみながらランチをテイクアウトの弁当にして販売し、午後のカフェを時短営業しながら活動を継続しました。



1テーブル4人掛け配置にしていたテーブルを1人がけに変更



子育て支援として「子ども弁当」を100円で販売

●インタビュー●

令和4年3月末まで、カフェのママをされていた、
橋戸 良子さんにお話を伺いました。



事務局 新型コロナウイルス感染症の感染対策を実施しながらのカフェ運営について教えてください。

橋戸さん 4人掛けテーブルを1人掛けにした結果、お客さんとスタッフのお互いの顔が見えるようになり、お客さん同士やスタッフとの交流など今までとは違ったコミュニケーションが生まれ、新たなつながりができました。

しかし、コロナの影響で事業所に入所している方がお越しいただけなくなり、そこは寂しく思います。

昨年度からは、地域の子ども達にも利用させていただこうと、夏にかき氷のテイクアウト販売をはじめ、これが大ヒットしたんですよ。

事務局 活動継続のコツを教えてください。

橋戸さん 人の気持ちだと思う。この活動や、地域の繋がりが好きだという気持ち。お客さんとの会話も楽しいし、来てくれている人がいるから、休まず頑張ろうと思える。

新型コロナウイルス感染症の影響で今までのようにはできないけど、短時間で、工夫して頑張ろうと思える。感染症対策のため3ヶ月ほど閉店した時も、何か地域のためにできることをしようと、スタッフや社協の方と相談してお弁当を作ったりもしました。

事務局 この活動に携わってよかったと思うことを教えてください。

橋戸さん かつて、飲食店を経営していたノウハウがあったため、自分のできることで地域の方と協力し、人に喜んでもらえることができ嬉しく思います。

私は今年度から引退しましたが、この活動が長く続いてほしいと思います。



インタビューのひとこと

取材日当日、温かく我々を迎え入れてくださって、時間も忘れてお話をさせていただきました。

店内が1つになって、みなさんで楽しそうにお話しされている様子がとても印象的！スタッフのみなさまお疲れ様です。ごちそうさまでした！



認知症カフェの役割を持ったコミュニティカフェ

高齢者地域見守り隊 ● 紀宝町

活動概要

紀宝町は以前から高齢者の詐欺被害が多く、それを受け平成23年、24年に町で実施された見守り隊養成講座の修了者より構成される「高齢者地域見守り隊」が平成24年9月に発足しました。

現在では24名の隊員が在籍しており、サロンなどでの詐欺被害防止をテーマにしたオリジナルの寸劇の披露や、年金支給日を狙った詐欺被害を防止するための街頭啓発活動の実施などを行っています。



感染症対策 (工夫)

対面で行う街頭啓発活動では、フェイスシールドなどを準備し、配布物もウェットティッシュにするなどの工夫を行いました。

サロンでの寸劇披露は、コロナ禍でのサロンの中止に伴い行うことができませでしたが、寸劇を撮影したDVDを作成し貸し出しするなど、活動に制限がかかるなか、出来る範囲での活動を行いました。

新型コロナウイルスの流行が終息した時は、再び寸劇をみんなの前で披露し、地域のお祭りなどでさらに大きく啓発活動を行いたいと考えています。



詐欺被害防止をテーマにしたオリジナルの寸劇



街頭啓発の配布物

●インタビュー●

令和4年4月から
高齢者地域見守り隊の代表を務められている
伊藤 俊介さんにお話を伺いました。

INTERVIEW



事務局 作成したオリジナルの寸劇のDVDについて教えてください。

伊藤さん 完全自主製作のDVDです。編集はほとんど行わず、一発撮りで、寸劇を撮影しました。隊員の方々は高齢者が多いため、同じ演目をしてアドリブが多く入ります。そのため、時には大きく物語が変わることもあります。DVDでもアドリブは入っていますが、いろいろなバリエーションを見て頂けないのが残念です。

寸劇やDVDを見て、興味や関心を持っていただくために、「コロナ便乗特殊詐欺」や「キャッシュカード搾取」を演目としています。

事務局 継続活動のコツを教えてください。

伊藤さん 無理せず、出来る範囲のなかで活動することだと思います。無理な課題を作ってしまうと、苦労しても続かないので、苦に思わないような活動を心掛けています。

高齢化や人数の減少によって今後どうしていくかというお話がありましたが、私自身は無理に若い人材を求める必要はないと考えています。無理に若い人を招いてしまうと、高齢者の方々が「もういいか。」と遠慮してしまうかもしれません。今のままで、無理に若返りをめざさなくてもいいと思います。動ける人が、無理をせずに楽しく活動することが一番大切だと考えていますから。

事務局 この活動に携わってよかったと思うことを教えてください。

伊藤さん 長く続いているなど、思えることが嬉しいです。詐欺被害が、紀宝町であり聞かないのも、この活動が関係しているのかなと感じます。怪しい勧誘などがあれば、すぐに地域包括支援センターの方に連絡が来るようになってきました。こういった連絡も、一人一人が意識を持ってもらえているのではないかと、実感できます。

動画はコチラからご覧ください♪

新型コロナウイルス便乗
特殊詐欺編

キャッシュカード搾取編



インタビューのひとこと

DVD、拝見させていただきました。身近に起きてしまいそうな詐欺などの注意喚起の内容を、楽しみながら理解できるのがとても素敵だと感じました。ぜひ、一度生で観賞させていただきたいです。



街頭啓発活動の様子

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料 (1名あたり) 団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン	特定感染症重点プラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円			
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)			
	入院保険金日額	6,500円			
	手術保険金	入院中の手術	65,000円		
		外来の手術	32,500円		
	通院保険金日額	4,000円			
	特定感染症	補償開始日から10日以内は補償対象外(*)	初日から補償		
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)			
年間保険料		350円	500円	550円	

商品パンフレットは
こちらから



(ふくしの保険
ホームページ)

*3月末までに契約手続きが完了し、前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 特定感染症重点プランでは中途加入の場合でも補償開始日より特定感染症が補償対象となります。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償 (傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)



社会福祉施設総合損害補償

しせつの損害補償

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償

(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、サイバー保険、
動産総合保険、費用・利益保険)

1 基本補償(賠償・見舞費用)

保険期間1年

▶保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故に対応	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
お見舞い等の各種費用	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時 100万円 入院時 1.5~7万円 通院時 1~3.5万円

- オプション1 ● 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 ● 施設の医療事故補償
 - ・ 医務室の医療事故補償
 - ・ 看護職の賠償責任補償
- オプション3 ● 施設の借用不動産賠償事故補償
- オプション4 ● クレーム対応サポート補償
- オプション5 ● 施設の感染症対応費用補償
休業補償から各種対応費用までワイドな安心

- ① 休業や縮小営業による収益減少はもちろん、収益減少を防止・軽減するための人件費なども補償
- ② 消毒・清掃費用や自主的なPCR検査費用など、かかった費用を幅広く補償
- ③ 感染症対応特別費用で定額20万円を早期に受取り

- ② 個人情報漏えい対応補償
- ③ 施設の什器・備品損害補償

プラン2 施設利用者の補償

(普通傷害保険)

- ① 入所型施設利用者の傷害事故補償
- ② 通所型施設利用者の傷害事故補償
- ③ 施設送迎車搭乗中の傷害事故補償



プラン3 職員等の補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険、雇用慣行賠償責任保険)

- ① 職員の労災上乗せ補償
使用者賠償責任補償
- ② 役員・職員の傷害事故補償
- ③ 役員・職員の感染症罹患事故補償
- ④ 雇用慣行賠償補償



プラン4 法人役員等の補償

(役員賠償責任保険)

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は「しせつの損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 ▶ 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL : 03(3349)5137
受付時間 : 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL : 03(3581)4667
受付時間 : 平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)



コロナ禍における 小地域福祉活動のカタチ

2023年3月 発行

三重県社会福祉協議会

〒514-8552 津市桜橋2丁目131

(三重県社会福祉会館2F)

TEL 059-227-5145

<https://www.miewel-1.com>



本事例集は、赤い羽根共同募金の配分金事業を活用して作成しました。